

# 道博協ニュース

## 第62号

発行 平成10年(1998)3月31日  
発行所 北海道博物館協会  
事務局 北海道厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

### 学芸員が紹介する

### 『北海道の博物館』進捗状況報告

構想から一年以上、いくつかの試行錯誤を繰り返しながらも、ようやく取りまとめができることになりました。

早く原稿執筆をお引き受け下さった方々、お忙しい中編集に携わって下さった方々のご協力の賜物と、心よりお礼申し上げます。

平成九年九月から十月にかけて原稿執筆のお願いをしてから、具体的な編集作業にとりかかったわけですが、それまで、体裁、内容、情報提供の方法、集約方法等々、さかんに議論を重ねてまいりました。結果、盛りだくさんの情報も必要だが、利用者がこのような施設に行ってみたい、このルートをたどってみたい、ひとつのことがらが関連しな

味を持つていただけるような

ガイドブックにしたい、ということになりました。

平成十年二月に最終の編集

実務者会議を開催し、体裁等

の確認を行いました。以下に

その概要を報告します。

#### Ⅱ 体裁・内容 Ⅱ

A5判 二色刷り

掲載館数 二三〇館

表掲載館数 一九五館

ルートガイド 五ブロック

コラム 一二編

アイコン情報リスト

一、道南

渡島・檜山

二、道央Ⅰ

石狩・札幌・空知・後志

三、道央Ⅱ

胆振・日高

四、道北

上川・留萌・宗谷

五、道東・オホーツク

十勝・釧路・網走・根室

ルートガイドについては、ブロックごとの施設概観、さらにはテーマ性を持った施設めぐり案内などを主に掲載することになります。

また、コラムは単調になりがちなガイドブックに一種のメリハリをつけるため、掲載するもので、それぞれの地域の特徴ある素材をとりあげておきます。

各館園の一端で活躍している学芸員が、自らの手で、自らの施設を紹介する。全国的にみても、ユニークな取組ではないでしょうか。

今回、編集に係って感じたことを申し上げますと、情報収集の過程で、改めて北海道の博物館ないしそれに類する施設の数多さとそれに反比例して、専門職員の少なさです。このガイドブックが単に博物館の利用ガイドに止まらず、専門職員がいるとこのような活動ができ、地域の素材を活かした運営ができるのだということをも感じ取って

ただきたい、と思います。これからの日程ですが、年度末の北海道新聞社との出版契約締結を経て、集約された原稿の引き渡しの後、印刷に付す予定でおります。

四月中旬ないし下旬ごろ校正原稿を各執筆者あてお送りし、第二校正からは編集実務者が担当します。そして、五月下旬の出版をと考えております。

もっと早い時期での印刷回付を目指しておりましたが、事務局の対応のまずさから、この時期までずれこんでしまいました。早くから原稿をお送り下さった方々にはご迷惑をおかけしましたこと、おわび申し上げます。

大勢の人たちの手を経て、取り進められてきた「北海道の博物館」、もうじき、現実のものとしてその姿をあらわそうとしています。

(北海道博物館協会学芸職員  
部会事務局長 矢吹俊男)

## 平成九年度網走管内 博物館連絡協議会の活動について

当協議会は、網走支庁管内の博物館、郷土資料館等が相互に連携し博物館事業の振興発展を図る目的で、昭和六十二年三月に発足以来、本年度で十年を迎えました。現在、二十市町村の博物館等三十二施設が加入しています。

と標本の作り方」についての講演をいただいた。

二日目は、「昆虫の家」がある常呂町吉野地区で主に蝶を中心に昆虫採取を行い、続いて、蝶の標本づくりを実習し、有意義な研修であった。

○総括研修会（後期研修）

・期 日 十月十八日

・会 場 北網圏北見文化センター

・対象者 前期研修と同様

内容は、平成九年度国立博物館・美術館巡回展「祈りのかたち記念シンポジウム」を開催し、テーマは「個性ある地域博物館」で基調講演「企画展のあり方を考える」講師は上湧別ふるさと館JRY館長・北海道立開拓の村・常務理事中村齋氏の講演に続いてパネリストが発表し「特別展の企画と変遷」斜里町立知床博物館学芸係長合地信生氏、「北方民族博物館の特別展」北海道立北方民族博物館学芸員笹倉いる美氏、「地域にお

ける企画展示」東京国立博物館普及室長村野隆男氏の三人からそれぞれ発表後、「企画展のあり方」について討論し、大変有意義な研修であった。

二、広報活動

機関紙「とびだせ網博協」第三号の発行、内容は総会報告、研修会報告、博物館活動案内、出版物の紹介など。

また、十周年記念誌を発行し内容は、発足の経過や活動の記録各施設の紹介など。

三、総会・役員会の開催

役員会（一回目）及び総会は五月二十八日網走サイクリングターミナルで事業・決算報告、事業計画・予算を決定。

二回目の役員会は十月十八日北方圏北見文化センターで平成十年度市町村義務外負担の申請、十周年記念誌の発行などを協議。以上が活動状況ですが、今後も更に充実した活動を展開してまいりたい。

（網走市立郷土博物館 館長 佐藤明夫）

## 平成九年度の道東三管内 博物館施設等連絡協議会の活動について

本協議会は、平成九年五月二十三日に釧路市立博物館で役員会と総会を開催し、前年度の事業報告と決算報告を行い、九年度の事業計画、予算案等を話し合った。

本協議会のメイン事業である「学芸員等会議」は、阿寒町で「シンポジウム保全生態学と博物館」というテーマで十月十二・十三日に実施した。基調講演は千葉県立中央博物館々々沼田眞氏を招き「保全生態学と博物館——現状と課題」と題しお話をうかがった。続くパネルディスカッションでは阿寒町教育委員会の若菜勇氏が司会を、報告は川辺百樹氏（上士幌ひがし大雪博物館）が「動植物保護、一般研究者の受入とボランティアによるサポート等について」、富沢日出夫氏（浜中町霧多布湿原センター）が「教育普及と研究助成公募の成果について」、新庄久志氏（釧路市立

博物館）が「釧路湿原保全と釧路市立博物館の役割について」、吉中厚裕氏（環境庁自然保護局北海道地区国立公園野生生物事務所）が「国外に於ける環境行政が博物館に期待するもの」という四本の報告と討論を行った。全体の内容は沼田眞先生の保全生態学という考え方をどう博物館が取り組み、どの様に展開していくかということを報告、話し合った。さらにエクスカッションとして阿寒国際センターとマリモ展示観察館を見学した。

このシンポジウムには、三管内外からの参加もあり、特に討論では、保全生態学だけではなく博物館間のネットワークをどの様にこの三管内で実施していくかが話し合われた。というのは、個人的なネットワークはそれぞれの分野でできつつあるが、館同士のネットワークができていな

ける企画展示」東京国立博物館普及室長村野隆男氏の三人からそれぞれ発表後、「企画展のあり方」について討論し、大変有意義な研修であった。

二、広報活動

機関紙「とびだせ網博協」第三号の発行、内容は総会報告、研修会報告、博物館活動案内、出版物の紹介など。

また、十周年記念誌を発行し内容は、発足の経過や活動の記録各施設の紹介など。

三、総会・役員会の開催

役員会（一回目）及び総会は五月二十八日網走サイクリングターミナルで事業・決算報告、事業計画・予算を決定。

二回目の役員会は十月十八日北方圏北見文化センターで平成十年度市町村義務外負担の申請、十周年記念誌の発行などを協議。以上が活動状況ですが、今後も更に充実した活動を展開してまいりたい。

（網走市立郷土博物館 館長 佐藤明夫）

く、できることは何か——から始めようということになった。

このシンポジウムの話し合いを受けて、事務局がアンケート調査を実施しネットワーキ化の素案を作成することとなった。現時点でアンケートは終了しその報告は各館に届いており、素案は今回の総会に示すことになっている。

その他の活動として、「道東三管内博物館施設等連絡協議会 平成九年度資料集」(B4版59頁)を作成している。これには加盟館の職員名簿、各館の事業報告と事業計画を掲載している。さらに「道東三管内博物館施設等連絡協議会ニュースNo7」を発行した。

本協議会の現在の加盟館は二十一館である。今年度は平成十年七月開館予定の足寄動物化石博物館が新たに加盟し、さらに十年度は、厚岸町水鳥観察館と別海町郷土資料館が加盟する予定となっている。

(根室市博物館開設準備室  
学芸員 川上 淳)

## 平成九年度の道北地区 博物館等連絡協議会の活動について

平成九年度の道北地区博物館等連絡協議会の活動として平成九年五月二十九日三十日に美深温泉で十二市町村の教育委員会や博物館関係者が集まって開かれました。総会では、昨年度で十回を数えた巡回展を改めて考え直してみようということと討議がされました。これまでは毎年一回あるテーマのもとに各博物館が資料を持ち寄って巡回展を開催してきているのですが、区域、内容、期間等についても継続をして話を続けていくことになりました。もう一つの討議は「博物館・資料館の現在」というテーマで現在の博物館・資料館のあり方、講座の内容や職員のあり方まで幅広い意見交換をしました。

平成十年一月三十日には、富良野市で「北の先史文化フォーラム」/北の発掘最前線」と題して、青山学院大学の田村晃一先生に「沿海州における古代渤海の遺跡調査について」の基調講演をいただき、発掘報告を①礼文町香深井5遺跡(オホーツク文化)②枝幸町落切川左岸遺跡(縄文文化・擦文文化)③枝幸町ウバトマナイチャシ(オホーツク・アイヌ文化)④下川町西町1遺跡(旧石器・縄文文化)⑤芦別市滝里遺跡群(縄文文化)⑥富良野市南扇山遺跡・無頭川遺跡(縄文文化)の六箇所の発掘報告をしてもらった後全体討論をし、その後も引き続き交流会の中で意見交換をしました。道北地区博物館等連絡協議会でこのような企画をしたのははじめてだったので、このフォーラムには道北地区だけでなく、各教育委員会など発掘の現場関係者に参加の呼びかけをしたところ全道から六十人以上の人が参加してくれました。

平成十年二月二十日には、旭川市博物館で協議会の研修会を開催しました。今回は

「環境変化に伴う地域における動物の生息状況」と題して旭川大学の出羽先生がネズミの生息数と種類数を旭川地域の河川を対象にした調査から、点としての緑ではなく線としての緑の必要性と、当麻町と旭川市の境界付近に生息するツチガエルがいくつかの状況から人為的に持ち込まれ、そこに生息している可能性が強いとの話をされました。同じく利尻町博物館の佐藤雅彦学芸員からは、利尻島におけるウミネコの集団営巣について他地域との関連についての報告、また、大型生物にかかわらず、プランナリアのような小さな生き物にとっても緑の影響は大変大きく、姫沼に生息しているプランナリア三種(一種は姫沼の固有種)が大きく影響を受けているとの報告がありました。

お二人の話はいずれも、軽い気持ちで持ち込まれた動物や安易な開発が生き物社会に与える影響が大きいという示唆にとんだ話でした。

## 平成九年度日胆地区 博物館等連絡協議会の活動について

胆振地区博物館等連絡協議会は、平成九年五月十八日に設立され、団体会員が十八館、個人会員一名、賛助会員一団体がスタートしました。設立時期が九年度に入ってからということもあり、加盟各館園の予算措置上、本年度はやむなく会費を徴収することができず、北海道博物館協会の補助金が唯一の活動資金となりました。

本年度の活動の概要についてごく簡単に触れてみたいと思います。加盟館園の協力により、当初予定していた役員会・館長合同会議の開催、協議会ニュースの発行、会員名簿の発行、学芸員研修会の開催等をは予定どおりにこなすことができました。

役員・館長合同会議は十一月十九日、苫小牧市博物館で行われ、十五名の出席者により、膝を交えたなごやかな雰囲気の中で、会議が進められ

ました。最初に、自己紹介もかねて各館園における年度前半の主だった活動状況が報告され、つづいて新年度事業のあり方について、種々、意見交換がなされました。平成十年度北海道博物館協会大会が、七月に浦河町において開催されるので、大会日程に合わせて、日胆地区博物館等連絡協議会の総会を浦河町で行い、協議会として全面的に支援し浦河大会を是非とも成功させようと全会一致をみました。日胆地区博物館等連絡協議会が設立され、早速、日高・胆振管内の博物館ネットワークが功を奏するものと期待されるところです。

学芸員研修会は、平成十年二月二十日、平取町立アイヌ文化博物館を会場に日高管内社会教育研究協議会学芸員部会研修会との合同大会として、アイヌ文化博物館職員のみなさんの尽力により開催されました。佐藤一夫会長より、日頃同じ管内の博物館で仕事をす学芸員仲間が、一堂に会して大いに語り合い、大いに

親交を深めよう」との挨拶を皮切りに、報告・協議「一枚の絵から——胆振地区の博物館等の現状を知り語り合おう」では、学芸員、博物館職員が日頃、自分が博物館で担当する仕事内容や研究内容などが披露されました。また、午後の学芸フォーラム「日高・胆振地区のアイヌ文化と博物館展示について」ではアイヌ民族展示コーナーをもつ五つの博物館施設等から、主に展示を取り巻く諸問題についてそれぞれに実り多い提言がありました。

(苫小牧市博物館 主査 吉田国吉)

### 平成九年度道南ブロック博物館施設等連絡協議会の活動について

今年度の連絡協議会総会および研修会は、平成九年十月二十三日、二十四日に熊石町歴史記念館を会場として会員、関係機関オブザーバーの二十五名を集め開催された。総会

では、とりわけ事業計画について、各博物館・機関等に共通する実態に則した継続性のある事業内容の検討、確認がなされ、前年度事業に引き続き「人材バンクの登録とデータ化」、「管内博物館施設等マップの資料収集」の二項目が当面の主要事業として取り上げられた。特に「人材バンクの登録とデータ化」は、前年度八雲町郷土資料館から参考資料として提供された「渡島管内生涯学習名簿の歴史・自然関係」、「八雲町民間有識者調査カード・名簿」等をもとに、具体的作業として「講師名簿登録紹介内容表」を作成し、各博物館、関係機関等に依頼、記入・入力後、回収され、回収された個々の登録内容表はパソコンに集約される。出来上がったデータベースは、

等から提供される人材最新情報をその都度基本データベースで加除され、常に新しいデータが提供されることは言うまでもない。と言いつつも、正直人材バンク名簿登録表の集約立ち上げが若干滞り気味であることは否めない現状であるが、時折事務局にかかる「遅れてゴメンコール」からすれば具体的な情報交換の始めの一步として会員の期すところが大きいことだけはまちがいないようだ。

また、研修会では、北海道立アイヌ民族文化研究センター古原敏弘研究課長、熊石町松田紀嗣企画課長を招聘し、日頃、学芸員が博物館の展示、

レファレンスに携わる中で観覧者はじめ研究者の間でしばしば話題になる資料名の表記法、参考文献、アイヌ地名の取り扱い等の「アイヌ資料の取り扱い」について、開催地熊石町に今も語り継がられる門昌庵伝説、円空伝、木喰伝説話等々を交え「熊石町の歴史と風土」について講演をいただいた。

どうやら今年度も身近な情報、たゆまぬ見聞を目指す研修会の目的を地元博物館関係者とともに熊石の地で、また一つ深め合えたことは何よりの成果である。

(市立函館博物館 学芸係長 長谷部一弘)

### 平成九年度北海道美術館学芸員研究協議会報告

北海道美術館学芸員研究協議会は道立美術館の学芸員の研究会として発足し、その後、他の美術館・博物館の学芸員担当者も参加して、毎年研究会を開いてきた。現在、今年十月に開催する道立釧路芸術館

を含めると十八館四十七名の会員で構成されている。平成九年度の総会・研究会は一月三十日、三十一日の両日、道立近代美術館で開かれた。今回の研究協議のテーマは「二十一世紀の美術館

像を探る」。文化庁は平成八年から二年間かけて、「二十世紀に向けての美術館の在り方に関する調査研究」を実施した。「こころのインフラストラクチャ」としての美術館の役割を再認識し、美術館の在り方を検討するこの調査研究では情報化、国際化、ボランティアなど生涯学習社会のニーズに対応した活動を提言している。

こうした美術館をめぐる新しい動きに目を向け、各館の現状を重ね合わせ、共通の問題意識をもつことは重要であろう。

一日目は「二十一世紀に向けての美術館の在り方に関する調査研究」の報告「二十一世紀に向けた美術館の在り方について」の概要と問題点について、この調査の協力者であった道立近代美術館の佐藤友哉氏が説明し、次に岩内の木田金次郎美術館の開設備を担当し、現在町の企画経済部企画課長をされている大島正行氏が美術館の町づくり効果について話した。二つの報

告に続いて、北海道新聞記者で美術関係を担当している梁井朗氏の提言、次に質疑・討論が行われた。

地域住民や行政が美術館に何を望んでいるのか。大島氏の強調した地域経済への効果や梁井氏が指摘した図書や映像など情報面の充実はその一端であろう。木田金次郎美術館などが進めている「しりべしミュージアムロード」構想は、ネットワーク化と広域観光が一つとなった新しい試みである。地域性や情報を重視し独自のネットワークづくりや活動と取り組んでいくことがこれからの課題となっている。近年、美術館でもコンピュータの導入が始まっているが、一日目の最後に早稲田システムが開発した「3D展示レイアウト・シミュレーション・ソフト」のデモンストラーションを見学した。

二日目は国立教育会館社会教育研修所専門職員 廣瀬隆人氏が「二十一世紀の創造的美術館像」と題して、NPO 美術館像」と題して、NPO 法や地方分権、生涯学習の推

進といった社会の流れの中で美術館の施設や活動はどう変わっていくのか、住民参加、ネットワーク化、情報機能の充実、バリアフリー化など具体的に将来の美術館像について話された。

二日間の研究協議を通じて、

**平成九年度日本動物園水族館協会  
北海道ブロック飼育技術者研修で報告**

道内十二の動物園・水族館と六名の会友で組織される社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロックの平成九年度秋季飼育技術者研究会が登別マリンパークで開催されたので次のとおり報告します。

●日 時：平成九年十一月五日（水）、六日（木）

●場 所：登別グランドホテル

●参加者：札幌市円山動物園／白澤昌彦・大久保 博、旭川市旭川動物園／高橋久雄、おびひろ動物園／大沼智彦、のほりべつクマ牧場／佐々木和好・鳴海 誠、釧路市動物園／久保 廣行・原田和恵、市立室蘭水族館／坂口輝雄、

二十世紀に向かって、美術館・博物館の役割がますます重大になっていくこと、さまざまな期待が寄せられていることを共通に認識できたのではないだろうか。

（道美学芸研幹事 浅川 泰）

尾）  
二、大型水槽リニューアル工事による展示魚移動について 下村明宏（ニクス）  
三、チンパンジーの食糞についての調査について 高橋久雄（旭川）  
四、飼育下におけるオジロワシの繁殖成果 原田和恵（釧路）  
五、サトウチョウの自然繁殖について 大久保 博（円山）





六、エゾヒグマの雌雄の分離飼育の経過について 鳴海 誠(クマ牧場)

七、ホッキョクグマの繁殖について 久保基廣行(釧路)

八、カリフォルニアアシカの繁殖及び飼育経過について 大沼智彦(おびひろ)

九、セイウチ (*Odobenus rosmarus diergens*) の飼育経過について 川村敏明紀(小樽)

十、水槽における幼魚ヒラメの飼育経過について 高橋 毅(ノシャップ)

十一、水槽内で孵化したホテイウオの初期育成について 志村 和生(ニクス)

以上の内容で第一日は各園館の研究結果が発表され活発な討議がなされた。特別講演では、身近な魚であるサケ類に関する貴重なお話を頂き参加者一同の関心も高かった。懇談事項では、承り事項・協議事項が四園館から提出され活発な意見交換がされた。(登録マリンパークニクス 飼育課課長 守谷 浩)

### 道央地区(石狩、後志、空知)博物館施設等連絡協議会の設置準備の状況

道内全域に北海道博物館協会地区連絡協議会を設立の推進については、平成八年度道博協総会において、決議されたところ。それを機に日胆地区博物館施設等連絡協議会が昨年五月に設立されましたが、道央地区(石狩、後志、空知)については未だ設立されておられません。

それ故、平成九年度の第二回役員会において、道央地区博物館施設等連絡協議会の設置を促進するために、作業部会を置くことが申し合わされ、安藤副会長、本間理事、青木理事、三野理事の四名が担当理事に指名されました。作業部会では、道央地区博物館施設等連絡協議会(仮称)の設立準備に先立ち、道央地区に所在する会員の館園等に、地区連絡協議会設置の是非についてアンケートによる意向調査を実施いたしました。

その結果、大多数の館園等が地区連絡協議会の設置を望み、情報交換や研修会等事業の実施に期待をもっていることがわかりました。ただ、今の地方公共団体等の財政事情から、これ以上の会費の負担は困難であるとの指摘もありました。

このような会員の意向を受けて、作業部会では設立を目的として、基本的なスタンスを①道博協の総意に基づく設立、②道央三地区の一本化、③館園の活性化におくことと

少年科学館職員研修会補助金支出

3・19 平成十年度各館園の普及及び展示事業調査

3・24 平成十年度道博協大会現地協議(浦河町 事務局長、事務局次長)

3・27 平成九年度第四回役員会(於 雪印パーラー)

3・31 北海道新聞社と「新版 北海道博物館ガイドブック」(仮)の出版契約

(財)日本博物館協会平成九年度助成金入金

### 事務局日誌

(平成10年3月26日~3月31日)

2・26 網走管内博物館連絡協議会十周年記念誌原稿送付

3・3 臨時職員(第三種)橋場葉子さん雇用

3・5 平成九年度生涯学習推進事業(生涯学習振興奨励補助金・北海道博物館協会ミュージアム マネージメント研修会) 事業報告提出

3・10 平成九年度第四回役員会開催案内

3・13 平成九年度北海道青

### お知らせ

開拓記念館内での人事異動に伴い事務局員の一部が交代しました。

旧事務局員 山田悟郎・林 昇太郎

新事務局員 村上孝一・添田雄二

道博協ニュースの体裁が変わります。62号まではB5判縦書き五段でしたが、63号からはA4判横組みとなります。